

## A-II-07 当院における人工呼吸器使用中管理の取り組み

- 1) KKR 高松病院 リハビリテーション科 2) KKR 高松病院 臨床工学科  
3) KKR 高松病院 内科

宮崎 慎二郎<sup>1)</sup> 塩見 基<sup>2)</sup> 粟井 一哉<sup>3)</sup>

当院では臨床工学技士が人工呼吸器の定期点検や使用後の回路の組み立て、使用前点検を行っていたが、人工呼吸器使用時の安全管理、事故防止に関しては主治医、看護師などによる個々の管理が中心であり統一したものではなかった。そこで院内での人工呼吸器使用中の統一された管理を目的にいくつかの取り組みを開始したので報告する。

まず2004年1月より、人工呼吸器使用中の患者に対し臨床工学技士が1日1回の使用中点検を開始した。そこで、医師、看護師では気づきにくい人工呼吸器のトラブルや誤った使用方法、不具合が多く発見された。そこで点検時は臨床工学技士とともに看護師も同行するようにし、機器不具合をその場で報告、指導できる体制にした。さらに、2005年4月には院内の呼吸療法に関する全てを統括している呼吸療法委員会内に人工呼吸器安全管理委員会を設立し、週1回呼吸器科医師、いずれも呼吸療法認定士を取得している臨床工学技士、理学療法士、看護師による合同回診を開始した。それ

により、機器使用状況のみではなく、設定、呼吸状態をはじめとする全身状態の評価も可能となり、改善すべき点があれば適時主治医、担当看護師へアドバイスできる体制が整った。また2005年10月からはIPPV用、NPPV用2種類の人工呼吸器使用中チェックシートを作成、看護師がベッドサイドにて評価すべき事項を明確にすることで、統一された管理が行えることを目標にしている。

今回、2004年度と2005年度の不具合の発生数を比較した結果、件数では2004年度114件から2005年度は64件へ減少し、総使用件数に対する割合でも12.8%から5.8%へと低下を示した。また2005年度の前期(4月～9月)、後期(10月～3月)を比較してみても、不具合発生数は42件から22件へと減少傾向にある。

依然、人工呼吸器使用中の不具合はいくつか発見されるがいずれも些細な事例であり、チームにより統一管理し、不具合の防止または異常の早期発見することで事故を未然に防ぐことが可能と考える。